

アジアにおける循環型社会構築に向けた3Rの推進

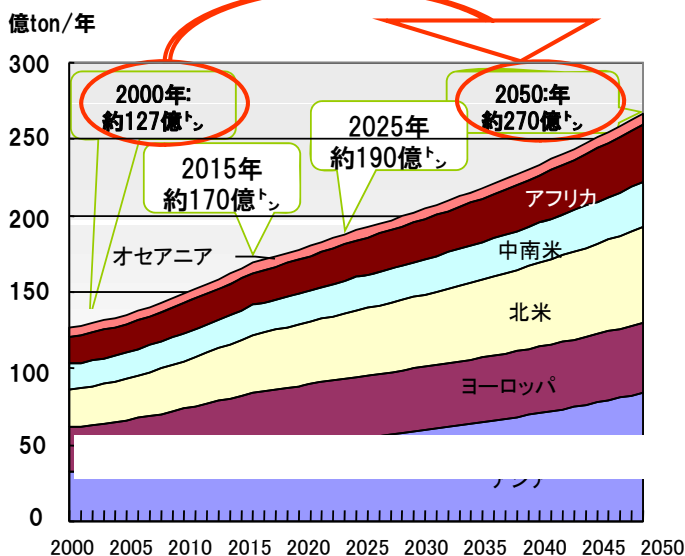
環境省廃棄物・リサイクル対策部
循環型社会推進室長 大森 恵子

1

世界的な廃棄物問題とアジアの現状

- ◆ 近年アジアを中心とした経済成長と人口増加に伴って、世界的に廃棄物の発生量が増大し、質も多様化してきた。現在では金融危機の影響で短期的には発生量の低下が見られるが、長期的には発生量の向上が見られる。
- ◆ 途上国では、環境上不適切な形でリサイクルが行われている事例が報告されている。

【世界の廃棄物排出量の将来予測 2000-2050】



出典: 岡山大学資料

アジアにおける廃棄物処理の現状

中国

1995年から2004年の過去9年間に廃棄物発生量が約1.8倍に増加。

OECDが実施した環境政策レビューにおいて、中国に対し、循環経済に向けた取組の強化、廃棄物処理施設の整備や廃棄物の回収・再利用・再生利用のシステムの構築などを勧告。(2006年)

インドネシア

バンドン市などの廃棄物が運ばれていた最終処分場が、2005年2月、豪雨の後に崩落。147名の死者を出す惨事となった。 2

第2次循環基本計画の概要(平成20年3月25日閣議決定)

現状と課題

- 関係主体の取組により、最終処分量の減少など循環型社会の形成の推進に一定の成果
 - 世界的な資源制約、地球温暖化等の環境問題への対応の必要性
- 3Rの徹底など国内外において循環型社会の形成をより一層進めていくことが課題。

循環型社会の中長期的なイメージ

- 「**低炭素社会**」や「**自然共生社会**」に向けた取組とも統合した、「**持続可能な社会**」の実現
 - より良いものが多く蓄積され、それを活かした豊かさが生まれる「**ストック型社会**」の形成
- 地域の特性に応じた循環型社会(地域循環圏)、「もったいない」の考えに即したライフスタイル、関係主体の連携・協働、ものづくりなど経済活動における3Rの浸透 など

各主体の取組

○連携・協働

循環型社会の形成に向け、すべての主体が相互に連携

○事業者

- ・不法投棄の防止や3Rの徹底
- ・廃棄物処理の高度化、産業間連携

○国民

- ・マイ箸、マイバッグの利用などのライフスタイルの変革

○NGO/NPO、大学等

- ・連携・協働のつなぎ手
- ・知見の充実や信頼情報の提供

○地方公共団体

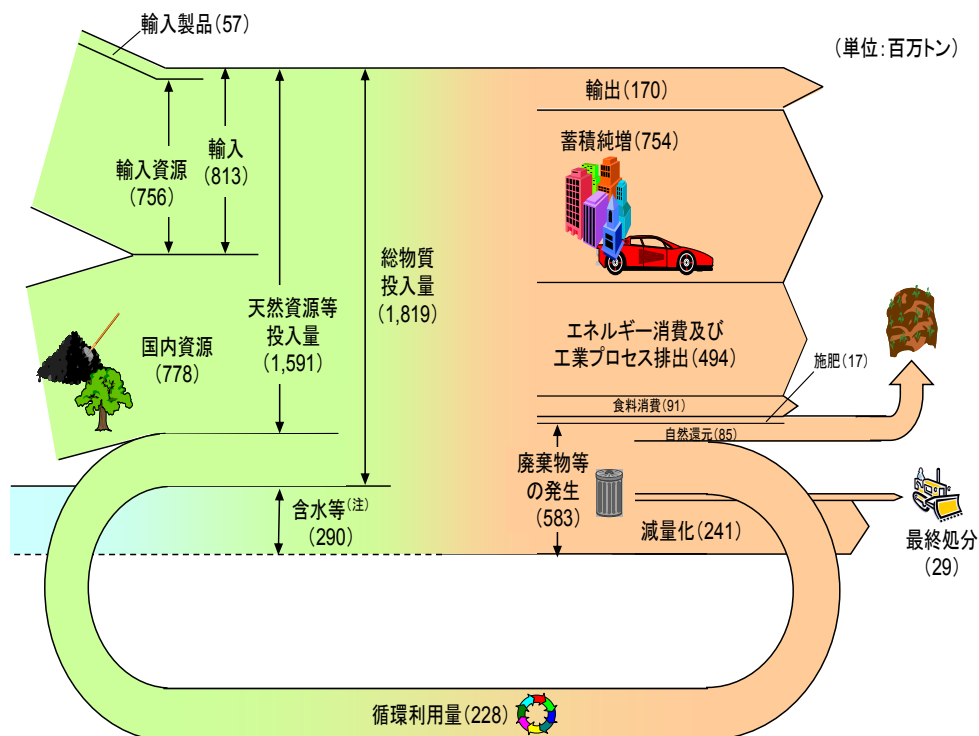
- ・地域の取組のコーディネーター及び主たる推進者

○国

- ・関係主体のパートナーシップを図るとともに、国全体の取組を総合的に実施

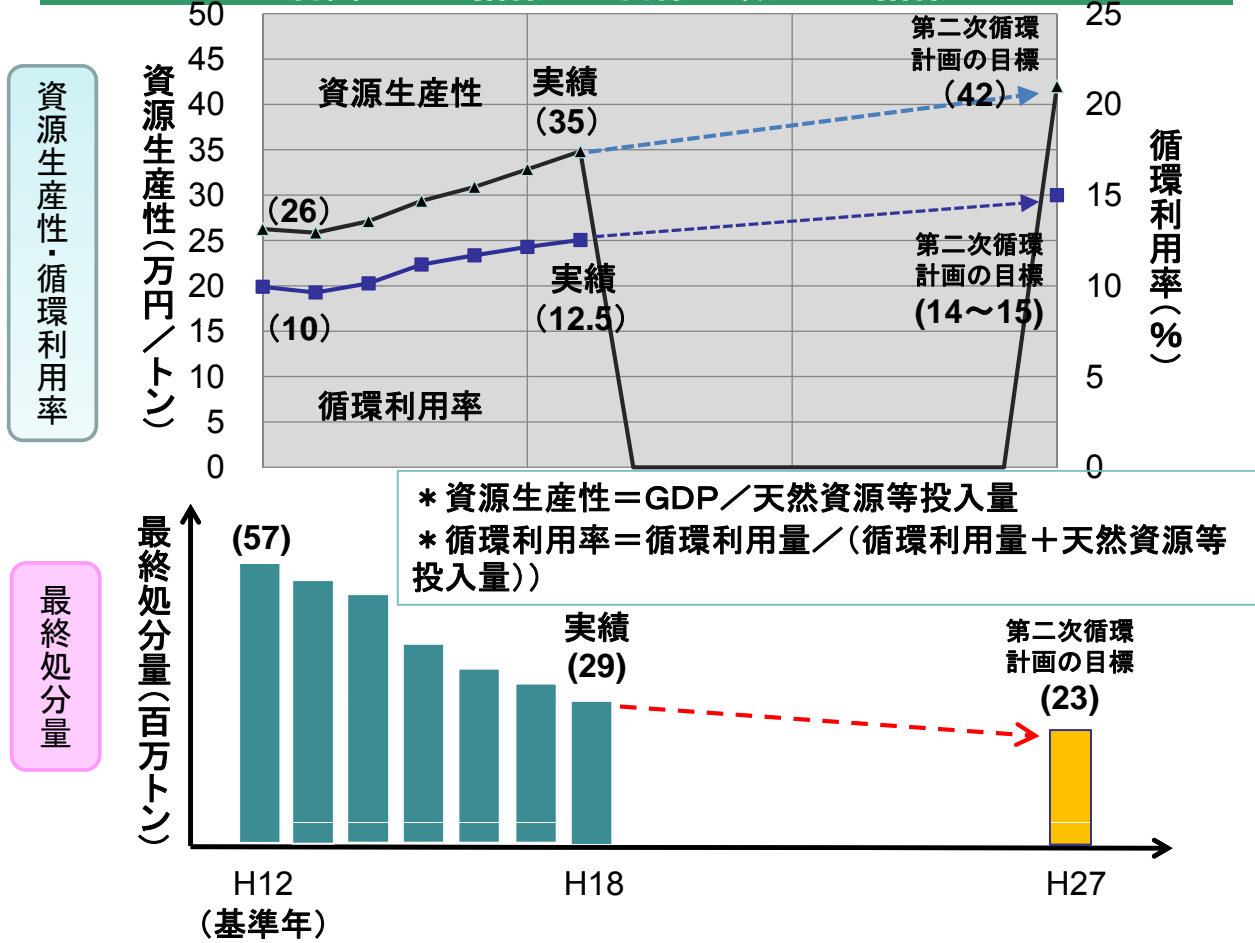
- ①低炭素や自然共生との統合的取組(廃棄物発電やバイオマス利活用)、
- ②「地域循環圏」の形成推進、③3Rに関する国民運動、④グリーン購入の徹底など循環型社会ビジネスの振興、⑤発生抑制を主眼とした3Rの仕組みの充実、⑥3Rの技術とシステムの高度化、⑦情報把握と人材育成、
- ⑧ごみゼロ国際行動計画や東アジア循環型社会ビジョン、資源生産性の向上等国际的な循環型社会の構築

2006年度のわが国における物質フロー



(注)含水等:廃棄物等の含水等(汚泥、家畜ふん尿、し尿、廃酸、廃アルカリ)及び経済活動に伴う土砂等の随伴投入(鉱業、建設業、上水道業の汚泥及び鉱業の鉱さい)

物質フロー指標 - 目標を設定する指標 -



国際的な循環型社会の構築における我が国の貢献

循環資源の国際的な動き

現状：アジアをはじめとする各国の経済発展による **世界全体での廃棄物の発生量の増加**
 リサイクルの進展や資源需要の増加による **循環資源の越境移動量の急激な増加**
 → 循環資源の不適切な処理・循環的利用による **環境被害の可能性** (E-waste問題等の発生)

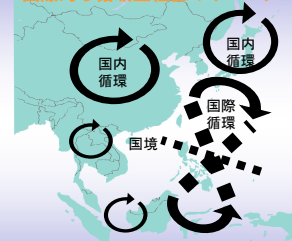
国際的な循環型社会の構築に向けた我が国の貢献

アジアや世界で3Rを推進するため、「**新・ゴミゼロ国際化行動計画**」等の国際協力を充実

アジア等

- **我が国の制度・技術・経験の国際展開**
安全で衛生的な処理システムの普及支援等を通じ、アジアからアフリカまで幅広く展開
- **東アジアにおける資源循環の実現**
・東アジアにおける循環型社会の構築に向けた二国間の政策対話や多国間プロセスでの協力
・3Rの考え方等の基本認識の共有
- **アジア3R研究・情報ネットワーク**
政策・経験の共有を通じて各国の3Rの取組を支援
- **廃棄物等の不法な輸出入を防止する取組を充実・強化**
・有害廃棄物の不法輸出入防止のためのアジアネットワークの開催
・税関と連携した立入検査等水際対策の強化

国際的な循環型社会のイメージ



G8等

- **資源生産性向上の取組に対する貢献**
・資源生産性向上など、G8の先頭に立ち3Rイニシアティブをさらに展開
・環境影響の評価等も念頭に置いた、資源生産性など物質フロー指標の国際共同研究の推進
→ OECDにおいて、物質フローと資源生産性に関する作業等を支援
→ UNEPにおいて、「持続可能な資源管理に関する国際パネル」を支援

3 R イニシアティブ

G8シーアイランドサミット（2004年6月）での合意

我々は、発生抑制、再使用、再生利用（「3R」）イニシアティブを、日本政府が2005年春に主催する閣僚会合において開始する。OECD等の関係国際機関と協力し、我々はこのイニシアティブを通じて以下のことをめざす。

- ・ 経済的に実行可能な限り、廃棄物の発生を抑制し(Reduce)、資源及び製品を再使用(Reuse)、再生利用する(Recycle)。
- ・ 既存の環境及び貿易上の義務及び枠組みと整合性のとれた形で、再生利用、再生産のための物品及び原料、再生利用・再生産された製品、並びによりクリーンで効率的な技術の国際的な流通に対する障壁を低減する。
- ・ 自発的な活動及び市場における活動を含め、様々な関係者(中央政府、地方政府、民間部門、非政府機関(NGOs)及び地域社会)の間の協力を奨励する。
- ・ 3Rに適した科学技術を推進する。
- ・ 能力構築、啓発、人材育成、及び再生利用事業の実施等の分野で途上国と協力する。

7

3 R イニシアティブの国際的推進

2004年	6月 G8シーアイランドサミット（米国） 小泉首相が3Rイニシアティブを提案し、各国首脳が3R行動計画に合意。
2005年	4月 3 R イニシアティブ閣僚会合（東京） 20ヶ国の閣僚・国際機関代表が参加し、3Rの国際的な推進について合意。
2006年	3月 3 R 高級事務レベル会合（東京） 20ヶ国・国際機関の部局長級が参加し、国内及び国際的な3Rの推進を議論
	7月 G8サンクトペテルブルクサミット（ロシア） 3R推進のために、G8各国は資源生産性を考慮した目標設定に合意
2007年	10月 アジア 3 R 推進会議（東京）
	10月 3 R 高級事務レベル会合（ドイツ・ボン） 08年のG8環境大臣会合で今後の取組に係る合意を目指すことで一致
2008年	3月 第2回アジア 3 R 推進会議（東京）
	G8環境大臣会合（神戸） 「神戸 3 R 行動計画」に合意
	G8北海道洞爺湖サミット 「神戸 3 R 行動計画」をG8首脳が支持
	G8各国の「神戸 3 R 行動計画」取組状況のフォローアップを行い、2011年のG8環境大臣会合へ報告
	10月 第1回東アジアサミット環境大臣会合（ベトナム） 日本から提案した「アジア3R推進フォーラム」に参加各国より賛同を得る

8

神戸3R行動計画(概要)

- ・G8環境大臣会合(2008年5月・神戸)においてG8の環境大臣間で合意、北海道洞爺湖サミットにおいてG8首脳が支持。
- ・2004年のシーアイランドサミットにおける我が国の提唱により始まった「3Rイニシアティブ」の取組を、G8各国が連携してさらに推進するもの
- ・3つの目標を定め、その実現に向けG8各国がとるべき行動を網羅

「目標1」 3R関連政策の優先的実行及び資源生産性の向上

- ・「もったいない」精神を共有し、3R関連政策を優先実行する。特に、廃棄物の発生抑制(Reduce)を優先して、「レジ袋の削減」などの具体的行動を取り、他国にも同調を呼びかける
- ・資源循環の最適化のため、各国が「資源生産性を考慮した目標」を設定する
- ・「有機ゴミの埋立削減」等を通じて「温暖化対策とのコベネフィットを追求」する

「目標2」 国際的な循環型社会の構築

- ・途上国を含め各国内での循環資源の適正管理、不法な越境移動の防止に取り組むことを前提に、循環資源等の国際貿易を推進し、持続可能な資源循環を地球規模で実施する
- ・途上国の環境負荷を低減するため、「G8や他の先進国が有害廃棄物等の途上国からの輸入の促進」に取り組む

「目標3」 開発途上国の能力開発に向けた連携

- ・「支援プロジェクトへの3Rの盛り込み」、パーゼル条約による途上国協力の支援、CDMの活用等により、G8各国との開発途上国の協力を推進する
- ・「技術、ノウハウ等の移転」「知識・研究ネットワークの強化」「普及啓発と環境教育」を推進
- ・ビジネス界の参加促進等、「関係者とのパートナーシップ」を促進する



2011年をめどにフォローアップ

9

新・ゴミゼロ国際化行動計画・概要(2008年5月25日発表)

～3Rを通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための新たな日本の行動計画～

I.各国のニーズに応じた 廃棄物の適正処理と3Rの統合的推進

- レジ袋削減対策等リデュースの具体的取組実践のアジア諸国等への呼びかけ
- JICA技術協力プロジェクト、円借款事業等の3Rの組み込み、ADB等援助機関と連携した協力の展開
- エコタウン整備の経験・ノウハウ等の移転
- 3R関連の国際協力に取り組む我が国の関係機関が一堂に会する場を設け、情報共有・相互連携を強化
- 我が国の専門家を活用し、生ゴミやし尿を含む廃棄物処理等の状況調査・環境改善策の提言を行う仕組みを検討

II.廃棄物の適正管理・3Rを通じた温暖化対策への貢献

- クールアース・パートナーシップを踏まえ、コンポスト化、最終処分場整備等コベネフィット型の協力を推進

III.有害廃棄物の不法な越境移動の防止

- 「有害廃棄物の不法輸出入防止に関するアジアネットワーク」
- 「アジア太平洋地域における廃電気電子製品の環境上適正な管理プロジェクト」



IV.アジア全体の循環型社会の構築に向けた取組

- 「東アジア循環型社会ビジョン」策定に向けた対話プロセスの早急な開始
- 開発途上国の適正処理困難物の日本への受入のための取組の推進
- アジア各国における資源生産性の向上等に向けた情報の普及、専門家の交流

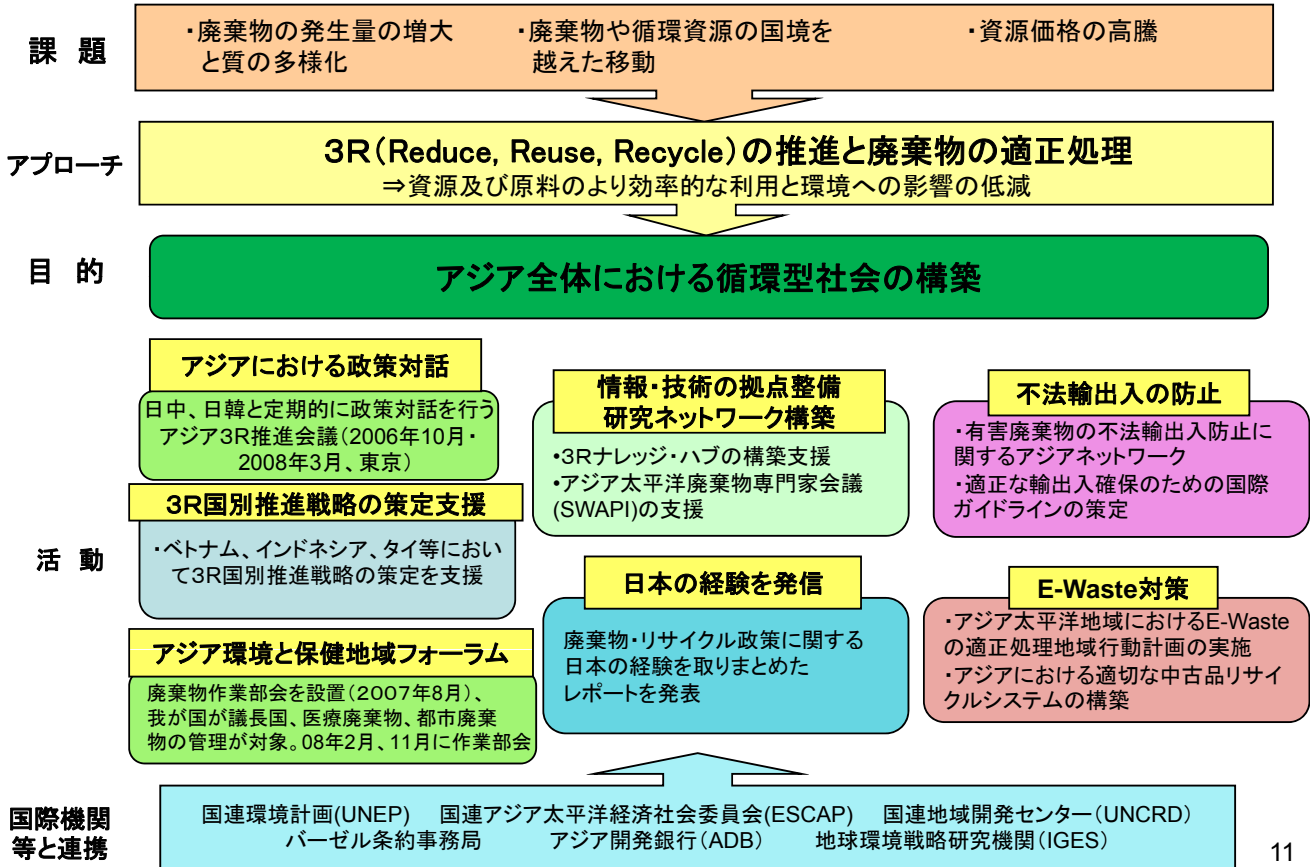


V.世界的な循環型社会の構築に向けた連携

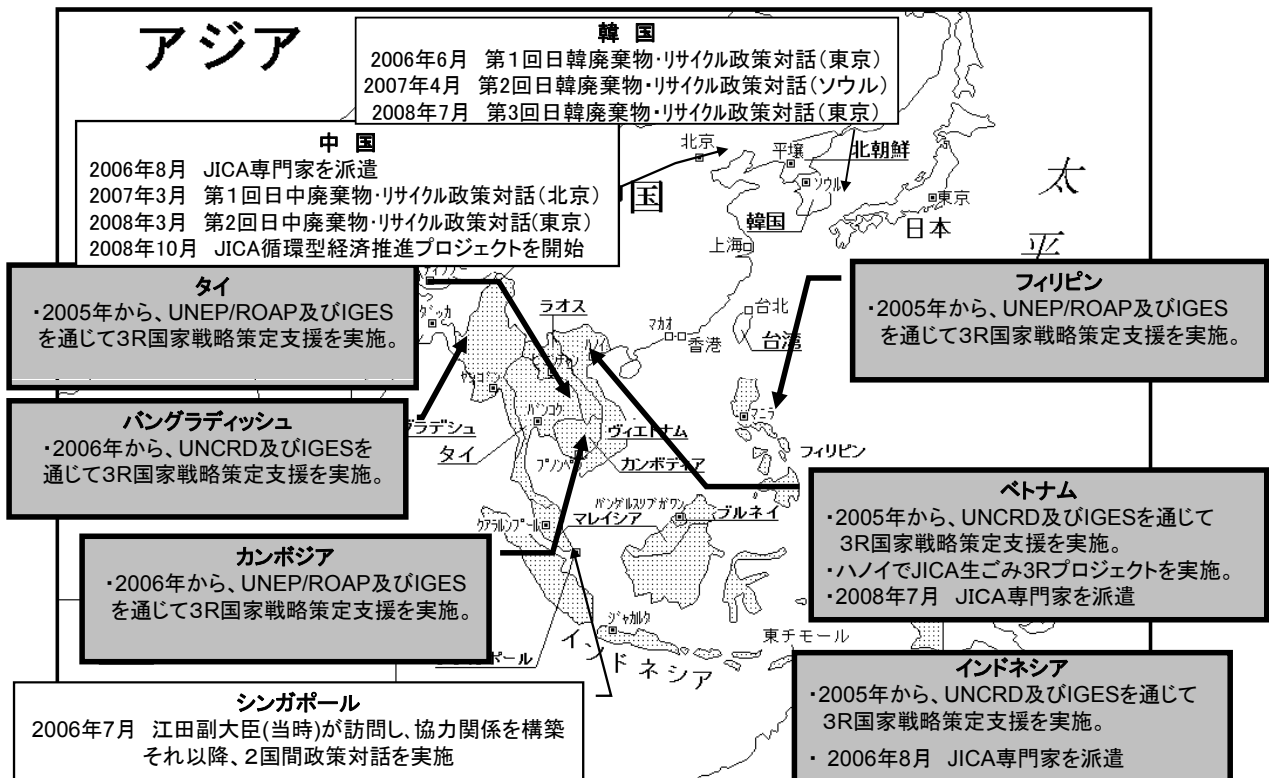
- G8環境大臣会合で合意し、北海道洞爺湖サミットで承認された「神戸3R行動計画」をフォローアップ
- G8等諸国、UNEP、OECD等の国際機関と連携し、持続可能な資源管理、資源生産性の向上、3Rの取組を推進

10

アジアにおける3Rの推進



3Rに関するアジア各国との二国間協力



不法な輸出入防止に向けた取組

アジア諸国との協力推進

担当官同士のネットワークや二国間での管理体制の構築を通じたアジア各国のバーゼル条約施行能力の向上

<アジアネットワーク>



不法輸出入防止ワークショップの開催

<E-wasteプロジェクト>

電気電子機器廃棄物(E-waste)の適正処理プロジェクトへの拠出

- ・E-Wasteワークショップの開催
- ・インベントリの策定
- ・回収パイロットプロジェクト等の実施



(中古利用目的と称したテレビ) (他の貨物に混入して輸出を図った基板) (中古利用目的と称したエアコン室外機)

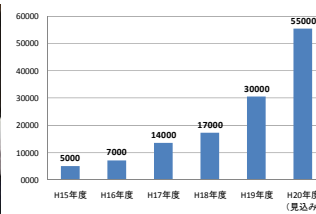
国内監視体制の強化

輸出事業者向け説明会や輸出入案件に係る事前相談、税関と協力した貨物の立入検査等の実施

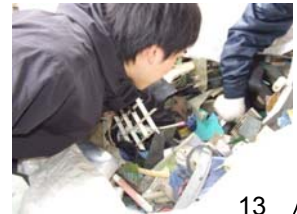
バーゼル法等説明会



事前相談件数



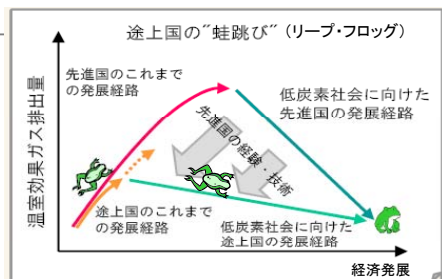
貨物立入検査



13

クリーンアジア・イニシアティブ ～アジア経済環境共同体構想の軸として～

- 低炭素型&資源循環型のアジアモデル
- 環境と共生しつつ経済発展を図り、持続可能な社会を構築



政策目標・施策の基本的方向

低炭素型・低公害型社会の実現

- 低炭素社会への移行を加速するためのビジョンの共有
- 公害対策と温暖化対策を同時に実現するコベネフィット型の開発を推進

循環型社会の実現

- アジアの循環型社会の構築を目指す
- 我が国の技術等を活用し、各国内の3Rを支援。不適正な循環資源の国際移動を防止
- アジア全体での循環資源の有効利活用を推進

気候変動に適応し、自然と共生する社会の実現

- 自然共生モデルの提唱
- 適応対策のためのソフト&ハードインフラの整備
- 観測及び研究による影響・脆弱性の把握・予測

横断的目標:市場のグリーン化の促進

- グリーン購入、サプライチェーンのグリーン化推進
- 金融資本市場における環境配慮型経済活動の推進

連携の基盤確立

- 自然共生社会を支えるパートナーシップの強化
- 人材の育成と活用
- 環境モニタリングや対策の標準化・ネットワーク化
- 環境と貿易の相互支持性の維持

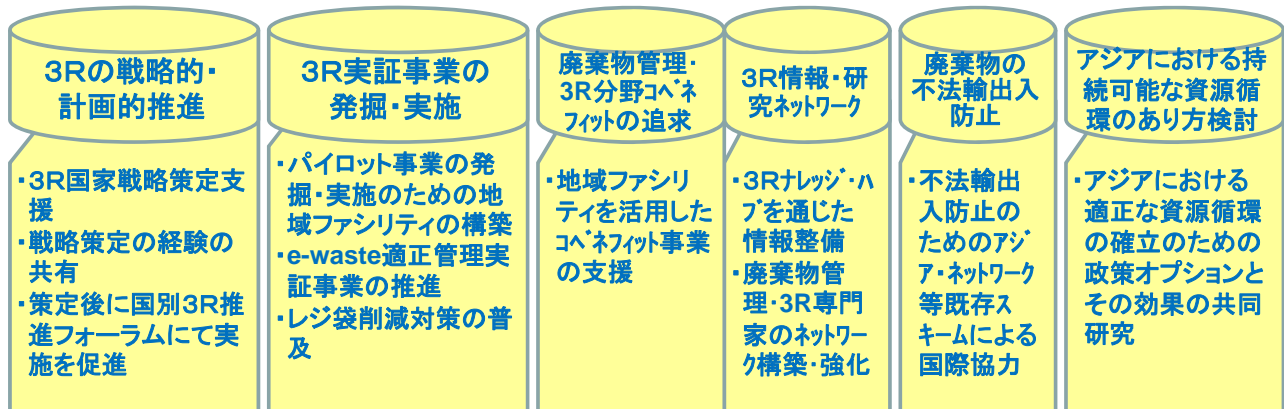
【各国の伝統、文化等に配慮しつつ、日本の経験・技術・組織・制度をパッケージとしてアジアに展開】

アジア3R推進フォーラムの発足

(各国政府、国際機関、ドナー、研究機関、事業者、NGO等
幅広い関係者が参加するプラットフォーム)

- ・政策対話を通じ、参加者の3R政策・活動の優先的実施を促進
- ・3R政策ツールの適用に関する知見・経験の交流を促進
- ・3R適用による効果及び便益を実証
- ・途上国の能力向上を支援
- ・地域の健全な資源循環の実現のための将来的な地域協力に関する相互理解を醸成

課題別の地域協力推進メカニズム



➡ 2009年夏～秋に第1回を開催

15

3R推進フォーラムに期待する成果

- 各国における環境政策・経済政策における3R政策の明確な位置づけ
- 3R関連の優良事例の普及
- アジアにおけるビジネスの機会の創出
- 3R技術、廃棄物の適正処理技術の開発と普及
- 3R関連の研究推進と研究ネットワークの構築・充実
- 途上国における3Rの取組推進についての能力開発
- 民間セクター、市民への3Rについての普及啓発

16